

キャッシュレスについて

■プリペイドカード

- NANAKO、WAON、ICOCA、SUICA、PITAPAなど
- 事前に入金して、金額内で利用できるタイプ
- オートチャージ機能を利用すると、銀行口座やクレジットカードの登録で不足がちになると設定した金額内で自動的に入金される

■クレジットカード

- 指定した銀行口座から引き落とされるが、利用時期によっては引き落としまで最長3カ月の猶予がある。

■デビットカード

- 指定した銀行から即座に支払われる(支払い時にVISAだと宣言する必要、一見クレジットカード風)

QRコード決済

■スマホのQRコード(読み取り・生成)を利用

- 店側が提示するQRコードを読み取る
- スマホで生成するQRコードを提示

■銀行口座・クレジットカード情報と紐つけ

- 事前に入金して決済に利用
- 自動的に必要額を入金して都度決済

- スマホの中に、キャッシュカードやクレジットカードが中に組み込まれているイメージです。

なぜ今更キャッシュレス

■ 消費税10%導入

■ 軽減税率に対処したシステムの構築

小売店では購入品の数%がポイント返還される仕組みを検討

■ クレジットカードへの設備導入コスト負担

◆ 手数料が高い: 専用線(CAFIS、ブランドネット、全銀ネット等)のシステム構築費の回収コスト

◆ 端末導入費が高い: 専用線の対応するために特殊な端末を都度開発

■ QR決済の簡易性、導入設備負担の軽減

◆ 導入過渡期のため、事業者側が設備を提供

◆ 無償や低額レンタルなど、手数料の負担軽減など

今後は QR 決済が主流？

■ 店側の導入コストを考えると

■ 決済側が導入コストを負担してくれる

過渡期の導入争い、シェア拡大争い、利用者獲得争い

■ iPadやスマホなどの既存機器を利用するので導入が容易

■ 売上金額集計の軽減

◆ 現金の受け渡し時の過不足の減少

◆従業員との信頼関係改善

■キャッシュレスによる強盗対策

7 Pay の失敗に学ぶ

- 7月1日に7Payが稼働開始
- 7月2日に不正利用が利用者から報告
- 7月4日に入金禁止措置
- 不正利用者が訳900人、被害総額5500万円以上

なぜ、こんな結果に

従来7ID というアプリで顧客情報を管理していた

- キャンペーンやポイント還元を目的に利用されていた
- このシステムを拡張して7Payに利用
- 7IDは、パスワードの再登録時に、IDとメールアドレスが分れば簡単に変更でき、それを悪用されて乗っ取られた
- 他業者は、パスワード変更時に第2認証方式を採用しており、SMSで携帯に第2認証パスワードを送信し、第2認証パスワードの入力で完結。

紛失や盗難時の対処について

■ カードタイプ

- 利用先のカード会社に連絡後、警察に届け出を
- ネット上から利用停止措置も行えるようになっている場合も

■ スマホ

- 事前にパスワードや指紋・顔認証など簡単に他人が利用できない措置を施しておく
- カードタイプと同じ処置を行っておく

乱立する QR 決済でお勧めは？

- 経済産業省主導で、QR決済の統一化を検討中
- 個別に生成するQRコードを、業界基準として統一
- 読み取り機で統一コードから請求先を振り分けし、店側の導入機器の負担を軽減
- QRコードは、店が提示する、利用者側が提示する、シールに印刷されたものを店が貼るの3通りがある。

終りに

- ▶ 自分の背丈にあった利用を心掛ける。
- ▶ 現金を扱わないので無尽蔵に使えるような気がするが、実際は貴方のお財布から出ていることを自覚しよう
- ▶ 最終的には、自己責任です。
- ▶ 以上くれぐれもご注意を！！